都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	和歌山県	市町村名	串本町（クシモトチョウ）	地区名	串本町地区（クシモトチョウチク）	面積	825 ha

計画期間	平成 17 年度 ～ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ～ 平成 21 年度

目標　メインテーマ　住環境の整備改善による災害に強いまちづくりと観光客集客によるまちの活性化

目標１：老朽化住宅団地の整備により居住環境の改善を図る。
目標２：災害時の避難場所、避難道路等整備を図る。
目標３：国際交流イベントや観光イベントによる観光客の集客を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本町は北緯33度28分、東経135度51分～57分で紀伊半島の最南端に位置すると同時に、本州最南端でもある。平成１７年４月１日に東牟婁郡古座町と合併し郡の所属も東牟婁に変更。東側は那智勝浦町、北側は古座川町、西側はすさみ町にそれぞれ隣接し、東・西・南側は太平洋に面している。本町は東西に細長い形をしており、海岸沿いに紀勢本線と国道42号が走っている。地形区分では、山地及び丘陵地が大半を占め、また、傾斜区分では40度以上の急傾斜地が6割を占める。気温は比較的温暖で日照時間も多いが、その地形上降水量が多く風も強い。

本町の総人口は、昭和35年の22,000人をピークに減少し続けており、平成16年9月30日現在では15,351人になり、老齢化も相当進んでおります。

そこで、本町としては若者の定住を促進するため、老朽化した住宅団地の整備をおこなうとともに、本町の自然（串本町の海岸のほとんどが、国立・県立公園として指定されている。）を活かした観光イベント（マラソン大会）や古くから交流のあるトルコ国との国際交流イベントを中心に串本町を全国にアピールしていきたいと考えております。また、観光イベントであるマラソン大会には多くの地元スタッフがかかわっており串本町のボランティアの組織づくりの契機になりつつあることからボランティア活動による地域振興を目指したいと考えています。また、先に述べているように本町は、海岸線に細長い形をしている関係から、近い将来起こる可能性が高い東南海・南海地震（特に津波）及び自然災害等に対し、災害時の避難場所・避難道路等の整備が急務となっております。

都市再生整備計画の策定にあたり、こうした状況を踏まえ、老朽化団地の整備事業、災害時の避難場所・避難道路等整備事業及び国際交流・観光イベント事業の３点に重点を置き、事業の必要性、重要性、妥当性を検討した結果提案するものです。

課題：　人口減少、過疎高齢化のすすむ本町にとって、老朽化住宅団地の住環境の整備等をおこなうとともに、国際交流や観光イベントをおこなうことにより串本町を全国にアピールすることによって、観光客等の集客をおこない地域経済の活性化をはかり、若者の定住促進並びに人口流出に歯止めをかける事が必要である。また、近い将来起こりうる東南海・南海地震（特に津波）被害に対しての、避難場所・避難道路の整備、特に串本地域の一部については、低い地形にあるため短時間で安全に避難できるような配慮が急務である。

将来ビジョン（中長期）
（1）自然を大切に守り育て活かすまち
（2）すべての生活活動に活力があふれるまち
（3）若者が希望をもてるまち
（4）人々がお互い尊重しあい住んでいて良かったと満足感を抱けるまち
（5）広い視野に立った国際交流の盛んなまち
以上の５項目の行動目標として『自然を活かし希望と活力のあるまち』を創出する。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
１．居住環境の改善	%	各年度における人口増減率を比較	居住環境の改善により定住促進にむけたまちの活性化を図る	-2.7	H１７	0.01	H２１
２．自主防災組織率の向上	%	事業完了後における自主防災組織率を比較	自主防災組織を支援することにより、個々の防災知識の普及をし、防災意識の高揚を図ると共に自主防災組織率の向上を図る。	22.9	H１７	100	H２１
３．観光客数	%	各年度における観光客増減率を比較	国際交流・観光イベントを開催することにより、串本町を全国にアピールし、観光客の集客を図る。	-2.3	H１７	0.06	H２１